

Kandai Style

2021.11 Vol.493

関西大学通信



秋深し、芸術の秋に
オススメの展示会

秋深し、芸術の秋にオススメの展示会 +1

すっかり季節は秋模様。過ごしやすい季節になりました。今月号は活動制限中でも知恵を絞りながら成長を続けている学生団体と、オンライン開催となった学園祭の実行委員長に話を聞き、それぞれのPRと活動中の写真を誌上展示会と称し紹介します。

グリーンクラブ



上田悠生さん(総合情報学部4年次生)

スローガンは「年中新歓」

グリーンクラブは、文化会所属の男声合唱団です。昨年はコロナ禍で身動きが取れず新入部員が0。「この状況を何とか打破せなあかん」と部員一丸となって動いた結果、以前よりも絆が深まりました。興味を持ってくれる学生と共にオンライン練習(Zoom)に参加するなど幅広く活動を行ったことで、今年の新入生が5人も入部したので大成功です。「年中新歓」をスローガンにいつでも入部者を歓迎しています。

コロナがあったから成長できました!

現在はマスク着用での対面練習と、オンラインを活用し先生とマンツーマンのボイスレッスンをしています。マスクをして歌う息苦しさよりも歌えない苦しさの方が大きいので、今を楽しんでいます。オンラインボイスレッスンはスキルの向上につながりました。その他にも、楽譜の読み方やハーモニーの原理を学ぶなど知識の定着も同時に行っています。



音楽知識の見直し練習(Zoom)

この秋の活動予定

部員数13人。新入生に本番を体験させてあげたいという思いから9月17日にミニコンサートを開催しました。11月3日(水)に「バックスフェスタ」が控えていますが、毎年12月に開催される定期演奏会が目玉イベントです。



9月開催のミニコンサート

放送研究会(KBC)



平田勇斗さん(社会学部3年次生)

人気番組に登場するのは「ヨシノ君」

学期ごとに番組編成を行っており、今年の人気番組は2年次生の「ヨシノ君」。ヨシノ君が1カ月間、毎日話題を考え、喋る企画です。「面白い!」と評判がたちましたが、本人の疲労具合を考えると、今後の予定は決まっています。その他に人気があるのが、歌番組。5年以上続く長寿番組で、他局を参考に人気度をポイント換算し、100曲のランキングを紹介しています。これからもキャンパス内に爽やかな放送をお届けします。



昼休みの生放送

新しい試みの動画ラジオ

動画でラジオという、皆さんのようなものか想像できないかもしれません。顔を出さずに画面とタイトルを工夫して放送しているイメージを想像してください。話すことが得意なアナウンサー、番組を編集するディレクター、そして音を調節するミキサーが力を合わせて制作しています。楽しい番組なので、ぜひ聴いてください。



収録の様子

KBCとは?

部員数41人。生放送もしくは収録した内容を昼休みに放送している千里山キャンパス唯一の放送局です。昨年4月からは、部員全員で話し合って動画ラジオを展開中。「ひとまずやってみよう」の精神から積極的な活動が持ち味です。



西表島のパラス島



荒川中岳から富士山を眺める

体を動かすことが多いのに、なぜか探検部は文化会

探検部は、登山やラフティングの野外活動が多くて体育会系のクラブと思われがちですが、所属は文化会です。文化会所属ということで、部内では歴史や民俗学などの文化的な活動も行っているため、スポーツが苦手でも入部できます。過去にはフィリピンやネパールに赴き、民族調査を行った先輩もいらっしゃいます。なんでもやりたいことができるクラブと思ってもらえるのではないのでしょうか。

クラブ活動で私が着目しているのは料理です。これまであまり注目されてきませんでしたが、エネルギーを多く消費する活動では食事がとても重要だと考えています。バランスの良いおいしい食事を提供して、部員の士気とパフォーマンスが高まるようにしています。

他大学との連携から新しい発見が生まれる

今年の新部員は10人と、一気に後輩が増えました。後輩には、他大学との連携を始めてほしいです。探検部は卒業生との縦のつながりは大変強いものがありますが、横(他大学)のつながりがあまりありません。探検部の将来を考えると他大学との情報交換は絶対に必要です。私たちが後輩にできることは、基本的な知識やテントの立て方、ご飯の炊き方などクラブ活動中の小さなことを教えるくらいです。他大学の動きに刺激を受けながら、新しい発見をしてほしいと思います。

この秋の活動

部員数23人。創部63年の歴史があり、過去には海外での洞窟探検、砂漠踏破などを行ってきました。現在は六甲山、愛宕山や木津川などで登山や川下りなどを行い、基礎体力の向上に努めています。

探検部



西村泰風さん(化学生命工学部3年次生)

合唱団でありながら、バンドもやっています

混声合唱団「葦」では合唱もできるし、カッコいいドラムも打ってバンドも組めます。全体練習は週2回。その他にはパートごとの練習や自主練習を行っています。みんな仲が良く、先輩が優しく教えてくれます。合唱、バンド、希望すればなんでもできるところが「葦」の魅力です。



バンド演奏の様子

どんな状況下でも工夫することの大切さを学びました

音楽はやはり生で聴いてほしいと思いますが、現在はYouTubeに動画をアップロードして公開しています。まず個人で録音して、それを合成。最後に混声にする必要があります。アップロードするのは一苦労です。先日、すべての曲がアップロードできてほっとしました。

様子を見ながら活動していた昨年と異なり、できることとできないことがはっきりし、「今できることをやる」という大切さをコロナ禍で学びました。部の最大イベントである定期演奏会が開催できると信じて精一杯練習しよう、と部員一同、気持ちが一つになっています。

今後の活動予定

部員数13人。12月にKUシンフォニーホールで定期演奏会を開催予定。皆さん、ぜひご来場ください。



コロナ禍前のコンサート

混声合唱団「葦」



渡邊晴香さん(経済学部3年次生)

落語大学



毛利亮仁さん(社会学部3年次生)

大学から落語を始めた人がほとんどです

落語大学の部員の約95%は初心者です。大学に入って初めて落語を聞いた人もいます。こんな部ですが、お喋りがうまくなる、人前でも物おじしなくなると評判を呼んでいるのでしょうか、今年も5人の新入生が入部しました。初心者でも頑張り続けることが大事で、一つ上の先輩である千里家紀流さん(本名：河野暁さん)は全国大会で準優勝に輝きました。



落研グランプリで準優勝した千里家紀流さん

観てもらおうが一番うれしい!

落語大学の練習は昼休み。部員が集まって、お囃子や大喜利の練習をしますが、後は自主練で三味線と太鼓の練習です。コロナでクラブ活動が思うようにできないので、部員のモチベーションが下がらないように寄席では工夫を凝らしました。現在、オンライン寄席しかできませんが、私たちはやはりお客さんに生で観てほしい。観てもらおうが一番うれしい。笑いで、皆さんに幸せを届けたいと思います。



夏のオンライン寄席

この秋の活動予定

部員数40人。年間5~6回の寄席を開催していますが、現在はYouTubeでオンライン寄席を開催しています。9月19日に収録した最新のオンライン寄席を公開中。詳しくは「関西大学落語大学」で検索してください。



2020春公演「極楽百景亡者戯」



2020冬公演「天守物語」

大迫力のアクションシーンが見どころ!

部員数の多さを生かしアクションや歌、ダンスを取り入れたエンタメ劇を得意としています。部員の中には武道をしていた学生、さらにはパソコンやビジネススキルなどを学んだ経験のある学生がいて、演劇活動だけでなく会議やウェブサイト作成時などでもそれぞれが個性を放っています。

活動しない時間を作らない

対面での練習ができなくなり、演技の方法やニュアンスを口頭ではなく文章で伝えています。今までは感覚で伝えていた部分もあったので、文面で伝える難しさを痛感しました。他にも、新入生向けにオンライン演劇に挑戦しました。得意なアクション劇ではなく、ドラマ風の会話劇にしたので苦戦しましたが、コロナ禍でも活動し続けたことが私たちの強みです。

この秋の活動予定

演劇研究部学園座は、66人の部員数を誇ります。年5回の公演に向け、週に6日練習に励んでいます。10月11日から1週間、秋公演「A!MAZE」をオンデマンド配信で上演しました。

演劇研究部学園座



前田凜太郎さん(文学部3年次生)

写真部(フィルムパート)



山口翔万さん(社会学部3年次生)

デジタルの時代だからこそ

コロナの前は全員での撮影会(2カ月に1回)と学年ごとの展示会(年に1回程度)を開催していました。デジタルの時代ではフィルムカメラの経験がある人が少なくなっているため、「教える」時間を積極的に取っています。私も入学してから写真を始めたので、後輩たちの不安な気持ちがよく分かります。



フィルムで撮影した写真

デジタルも活用

コロナが猛威を振るってからは、大学の許可を得て、感染対策を行いつつグループごとに撮影会を開催しています。また、月に1回程度、スマートフォンで撮った写真でも参加してもらえる写真の批評会をオンラインで開催して部員のモチベーションの維持に努めています。



新入生撮影会

この秋の活動予定

10月15~19日に、昨年は開催できなかった「新人展」を1、2年次生合同で開催しました。この2学年は学園祭でもオンライン展示会に参加します。11月には「3回生展」も開催予定です。

第44回関西大学統一学園祭「CENTER~僕らが作る、新時代~」 2021年10月31日(日)~11月3日(水) : 千里山キャンパス

今年のテーマは「CENTER~僕らが作る、新時代~」

現在の世界情勢を見渡すと、日本はもちろんのこと、世界中の状況は刻々と変化しています。その変化を乗り越えるためには、誰かに任せるのではなく一人一人が中心となって新しい時代を作り上げていこう、新しい時代の中心人物になろう、ということを実行委員会でも話し合い、今年のテーマを決めました。

当初は開催方法をオンラインと対面のハイブリッドを考えていましたが、YouTubeやInstagramを活用したオンライン配信のみとしました。その分、好きな時間に気軽に見ることができるので、高校生も勉強の合間に見ただけだったらうれしいです。



注目は「関大生1の漢は誰だ!~漢テスト」

イチオシの企画を聞かれると、必ず「全ての企画が目玉企画です」と答えています。

今年の学園祭では、関大生が後世に残したい曲を流す「K.U.ROCKFEVER19th」や「Kandai Dance Festival 2021」、輝いている関大生を紹介する「Regain a smile~関大 Comedy Live2021~」、軽音楽部による「関大音楽フェス」などの企画を用意しています。他にも、今年初めて開催する「関大生1の漢は誰だ!~漢テスト」も注目してほしいです。熱い男たちがアツいエピソードを語ります。

今年の主役はあなたです!

コロナ禍で制限されている中、各団体が工夫をして企画を練り上げました。学園祭は学生が作り上げるものです。コロナ禍で人とのつながりが希薄になりましたが、このような状況でも自ら道を切り開いている関大生がいます。学園祭を通じて、何か刺激を受け、皆さんの原動力のきっかけになれば学園祭実行委員長としてこんなにうれしいことはありません。最高のフィナーレを迎えたいと思います。

学園祭実行委員会



橋本卓成さん(文学部3年次生)



飲食業/亭主

料亭 菊水

平松 千直さん

愛知県 名古屋高等学校出身
2011年政策創造学部卒業

日本の文化を世界に発信したい 大切にしているのは、独自性と意外性を持つこと

かつて名古屋の奥座敷として栄えた愛知県一宮市に今も唯一残る料亭菊水。平松千直さんは、来る2022年4月1日に創業100周年を迎える老舗料亭の四代目です。

在学中に所属していた体育会アメリカンフットボール部では、主力選手ではなくサポート役になることが多く、チームはエースだけでなく支える人がいるから成り立つことを体感しました。その経験から世界のインフラを支える日立製作所に就職。その後、実家の料亭 菊水に戻ることを意識し、ヒルトンホテルでサービス業を、次いで魚屋では食材へのこだわりを学び、約10年の時を経て現在に至ります。

平松さんの1日は食材の仕入れから始まります。前職での経験から、魚の良しあしはもちろんのこと、市場の人の気持ちも分かるので、円滑に仕入れが進むそうです。仕入れから帰ると、玄関や廊下などの清掃を行います。こうした日々の積み重ねによって、100年前から残る「美濃赤坂」の大理石と寒水石を使った廊下や庭石は今もなお魅力を放ちます。また、洋風好きの先代が取り入れたスペインのランプやニューヨークの絵画、西陣とベルギーの生地を使用した升目天井などが自然に溶け込む館内は「和」の要素が際立ち、客人を癒します。

やったこと全てが自分の力となり、お客様の満足につながるのではないかという思いから、配膳や経理、広報活動、そして皿洗いまで広い分野の業務に取り組みます。また、2020年12月には、芸妓文化を伝承する団体の協力のもと「お座敷あそび体験」を実施するなど、花街の歴史や文化を伝える活動を積極的に行っています。「地域の特色や魅力を再発見して伝えることはゼミ活動で学びました。菊水を通じて日本の文化を世界に発信したいです」と語りました。恩師に教わり、今でも大切にしているのは、独自性と意外性を見出すこと、そしてデジタルの時代だからこそ手紙を書くこと。便箋と筆ペンは常にかばんの中にあります。

今年5月に開催された、コロナ禍での新たな取り組みを審査する「元気な店舗コンクール」で市長賞に選ばれた平松さんは「人生はどうなるかは分からない。まずは今いる環境で一先懸命頑張ってください」と在学生にアドバイスをくれました。

ある1日の
スケジュール

- 5:30 市場へ出発、仕入れ
- 7:30 館内清掃、昼席準備
- 11:30 昼席(接客・配膳)
- 14:00 昼食
- 14:30 営業活動
- 16:00 夜席準備
- 18:00 夜席(接客・配膳)
- 22:00 閉店
- 22:30 専務仕事



必須アイテムは、便箋と筆ペン、パソコン。そして自ら作成したチラシ。

Assistant Restaurateur

VIVA!!

学び易



社会学部 社会学科

「専門演習1」

秋山 隆 准教授

人の心に関するデータを収集・解析し、 結論に導く統計技法を学ぶ

ユニークな視点で人間の行動を分析し、社会に発信できる人材を育成。

秋山隆准教授の「専門演習1」では、目に見えない心を数値化する「心理統計学」と、人の行動や性格に関するさまざまな収集データを、数理的に解析し客観的な結論に導くための具体的な方法「心理統計技法」について学んでいます。卒業研究に向けた基礎づくりとして、さらに高度なモデリング技法を学び、統計モデルの考え方や読み取り方を学ぶ「理論」と、統計ソフトなどを使った分析技法を学ぶ「実践」の両輪で授業を行います。

ゼミでは教科書を選定し、理論を正確に理解するために教科書を輪読。レジュメを作成し発表を行うことで方法論の理解を深め、現象やデータの解析に生かせる知識を養います。

また班に分かれて独自テーマのアンケート調査を行い、収集したデータは統計ソフトを使って分析し、互いに発表し合うとともに、意見交換やディベートなどを行います。また、授業外では班ごとに集まり、コミュニケーションを取りながら、研究内容をまとめるサブゼミも推奨しています。

「データを解析する際は、自分で集め、調査したデータから導き出した結果を拡大解釈しないように注意し、データをしっかり分析する目を養ってほしい。学生の視野が狭くなっていると感じたときには、調査対象に関する歴史的背景の説明や話題の転換などを行い、視野を広げるための工夫もしています」と秋山准教授。

「今はビッグデータの時代。心理統計学とは異なる分野の仕事においても、さまざまなデータに出会うことでしょう。そのようなとき、自分の知りたいことを導き出すために、適切な分析方法を選択する力を養ってほしいと思います。そして、分析結果に適切な解釈を加え、社会に発信できる能力を身に付け、新しい理論を自ら学ぶ積極性も培ってください。きっと新しい発見があるはずです」と締めくくりました。



大西流聖さん(4年次生)



現在は卒業研究の準備をしつつ、3年次生との合同研究に参加しています。秋山ゼミは新しくできたゼミなので、自分たちで工夫して学びながら、ゼミの形をみんなで作っていくことができると思い選びました。人前での発表が苦手でしたが、ゼミでは発表の機会が多く克服できました。今後は人を支える仕事で、心理統計法の知識を生かしたいです。

高橋汐乃さん(3年次生)



1年次に秋山先生の「心理学統計法」の授業を履修し、内容は難しかったもののやるなら究めたいと思います。ゼミの良い点は、授業時間外でも班のメンバーが集まってとことん話し合うため、コミュニケーション力が身に付くことです。また、情報共有などから協調性の大切さも学びました。人の行動や心理を分析し、理解する力を生かしながら、社会貢献できる仕事に就きたいです。

高槻キャンパスの魅力

——巨大アリーナ、最新デジタル機器、シカの群れ 高槻キャンパスの今——

関西大学には千里山、高槻、高槻ミュージズ、堺の4キャンパスがあります。10学部が集まる千里山キャンパスは話題も豊富ですが、他の3キャンパスにもユニークな特徴があります。今回は高槻キャンパスについてホットな話題を紹介します。



3年に一度の水の張り替え作業

3年ごとに氷の張り替え

このキャンパスが全国的に知られるきっかけの一つは、2006年に完成したアイスアリーナです。日本の大学で競技仕様を備えた初めてのリンクとして知られ、フィギュアスケートの高橋大輔さんや宮原知子さんら有名選手の華麗な演技はこのリンクから生まれました。

そのリンクは3年に一度の大作業が欠かせません。氷の張り替えです。氷の下のコンクリート床に水が染み込むため、氷を除去してコンクリートを乾燥させないと、劣化が早まるのです。今年は7月から8月にかけて行われました。

氷上の塗料は5層塗り

驚くのはリンクの色です。真っ白なのが氷の色だと思ったら大間違い。あれは氷に塗った特殊な塗料の色です。厚さ10cmの水の下には、冷気が通じるパイプが縦横無尽に張り巡らされ、それを隠す必要があるのに氷に塗色するわけです。

その作業も半端ではありません。リンクは30m×60mの広さで、一度塗りではムラが出るため、5層の重ね塗りをするそうです。そのため張り替え作業は20日ほど要するのです。

モーションキャプチャーがやって来た

キャンパスの研究棟には、総合情報学部に必要な最先端の機器が備えられています。例えば今春から設置されたモーションキャプチャーは、人の動きをコンピューターに取り込んで3DCGキャラクターを動かすことができます。ゲームや映画、医療にまで使われているこの技術はさまざまな研究に活用できそうです。



人間の動きをするモーションキャプチャー

悠々とシカもお散歩

このキャンパスは豊かな自然の中にあります。それを示す1枚の写真。

今春、教室棟の近くで職員が偶然見つけたシカの家族です。馬術部が使う馬場のそばの草地を、悠々と横切って雑木林に消えたそうです。キャンパスに顔を出す動物はイノシシ、リス、ハクビシン…。

研究棟などをつなぐ道路の並木をよく見ると、何かで強く樹皮を擦ったり鋭い突起物で突いたような跡がたくさん見つかります。いずれもシカたちが角を樹皮で磨いた跡のようです。



馬場の近くで群れるシカたち ※野生動物に遭遇した場合は近づかないでください。

本格的なスポーツ施設や最新のデジタル機器が、動物たちと「共存」している大学は、そうありません。



経済学部 3年次生

奥村 航世さん

人が喜ぶ顔を見るのが好き。
人とのコミュニケーションで成長を実感。

関西大学放送研究会(KBC)アナウンサー部に所属する奥村航世さんは、昼休みの放送や入学式・卒業式、学内外のイベントなどで司会進行役(MC)を務めています。2年次にはKBCの渉内委員として学内団体からの依頼の受付を担当、3年次からは渉内部長に就任しました。渉内部長は統一学園祭のパンフレット局長とオリエンテーション実行委員会の副委員長も兼務します。

「パンフレット局では、約80人の局員がデザイン班とマップ班に分かれ、学園祭のパンフレットや学内の看板を制作します。局長の業務は、各班のスケジュール管理のほか、協賛企業のリストアップや電話での対応マニュアルづくりなど全体のサポートです」と奥村さん。協賛企業の多くは飲食店のため、コロナ禍で断られることも多く、企業集めに苦労したそうです。昨年はオンラインでの学園祭にあわせて、パンフレットもデジタル配信となり、全力を出し切れなかったような思いが残ったのだとか。そのため、今春、オリエンテーション実行委員会として制作した、新入生歓迎イベントのパンフレットが冊子として手元に届いたときは感激したと言います。

「活動を通じて、多くの方々と意見交換をしました。メンバーとの話し合いでは、それぞれの事情や考え方に寄り添い、少数意見も生かすことを心掛けました。また企業の方には昨年の状況やオンラインでのメリットを丁寧に説明しました」と振り返ります。「今年の学園祭のコンセプト『僕らが作る新時代』には、どんな困難な状況でも諦めず、新しい視点で考え行動し続ければ、未知は必ず開けるという思いが込められています。みんなで協力して、皆さんに楽しんでもらえるよう学園祭を支えていきます」。

年中多忙な奥村さんですが、4月には学部成績優秀者表彰を受けるなど、学業にも全力で取り組んでいます。「自分のフォローで同期や後輩が笑顔になる姿を見てうれしくなります。将来は誰かを笑顔にする仕事に就きたいです」と話してくれました。



2019年の統一学園祭でのイベント司会

今年の統一学園祭のテーマ「CENTER」のジャンパー



次回は、奥村さんからのご紹介で大山太陽さん(政策創造学部2年次生)が登場。お楽しみに!

Kousei Okumura

学部・研究科・併設校トピックス

法学部／法学研究科

今だからこそ読書をしよう

コロナ禍で外出の機会が減ったけど、自由になる時間は増えたという人も多いでしょう。その時間をどのように過ごしたらいいのでしょうか。私がお勧めしたいのは読書です。社会人になると、なかなか読書の時間を確保できないので、今がチャンスです。とはいえ、何を読めばいいのかわからないという人もいます。本の選び方は人それぞれですが、法学部のウェブサイトに掲載されている「関大法学部政治学系教員が薦めるこの3冊」もぜひ参考にしてみてください。面白そうな本が多数紹介されています。

(学生主任 若月剛史准教授)

政策創造学部／ガバナンス研究科

政策公務セミナー講演会

政策創造学部では、公務職に関心のある本学部生を対象に「政策公務セミナー」を実施しています。2021年度春学期は、Zoomを活用したオンラインセミナーとして、「公務員試験のしくみを知ろう」のほか、地方公務員である大阪府・大阪市職員の方による「大阪府・大阪市の取り組み」や、国家公務員である裁判所職員の方による「大阪地方裁判所事務局職員講演会」が実施されました。秋学期には「公務員試験合格者との対話会」なども予定していますので、関心のある方は奮ってご参加ください。

(森田崇雄准教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

遠隔授業と空気感

今年の春学期は、対面～遠隔～対面という極めて変則的な授業形態でした。昨年度の経験から、こちらが一方的に話す講義は乗り切れると感じていましたが(実際なんとかなりました)、ゼミの空気感を作り出せなかったのは、昨年と同じ反省点です。一定人数以上の遠隔の会議や学合も空気感の欠如が議論の深化を妨げているように感じます。ゼミが対面に戻ったときには心底安堵しました。

原稿を書いている現在、秋学期の最初の3週間がオンライン授業と決まっています。皆さんがこれを読まれる頃には、対面に戻っていますように。

(副学部長 村田右富実教授)

経済学部／経済学研究科

なぜその「問い」に答えるのか？

いま、4年次生は卒業論文の執筆のために、ある「問い」に答えようとしているはずですが、4年次生以外でも、ゼミでの研究や履修科目のレポート課題で、何らかの「問い」に答えることが求められるでしょう。では、なぜあなたはその「問い」を設定したのでしょうか？「○○に興味があったから」というのは不十分です。自分の興味から出発したとしても、その「問い」に答えることにどれほど社会的に重要な意義があるかを考えてください。そうすれば執筆した文章が感想文から論文に昇格します。

(小嶋健太准教授)

人間健康学部／人間健康研究科

超低温環境で疲労回復

スポーツ科学で注目のテーマは「リカバリー(回復期)」です。実はトレーニング効果として期待される生体の適応は回復期間で起きています。回復期の疲労・疲労感とフィットネスのバランスが重要となります。我々の研究室では、電気クライオバス(Cryo-Bath)を企業と共同開発し、マイナス120℃の超低温環境を実現しました。現在は、急性の超低温暴露が生体に及ぼす生理学的視点での基礎研究を進めており、運動・スポーツ後の疲労回復効果および日常生活における疲労克服につながることを期待しています。

(河端隆志教授)

各学部・研究科・併設校のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

KUBIC2021閉幕

KUBIC(関西大学ビジネスプラン・コンペティション)が10月9日に閉幕しました。本年度は、本選会での発表形式を従来の対面式からオンライン式に変更し、新たな試みで開催しました。発表の場が「オンライン」に代わっても、登壇者たちの熱意ある発表は観衆の心を揺さぶるものでした。

高校・高等専門学校等の優勝は、岡山県立高梁高等学校・大森麻琴さん。大学・大学院一般の部優勝は該当なしとなりました。詳細な情報はKUBIC公式ウェブサイトをご覧ください。

(岩崎拓也教授)

社会学部／社会学研究科

第41回「地方の時代」映像祭2021開催!

今回のサブテーマは「地域と人の未来を耕す」。コロナ禍でさまざまな制約や困難に直面するなかで、未来に向けて共に生きることの価値を再確認する狙いが込められています。

千里山キャンパスでは、11月13日(土)：贈賞式、グランプリ作品上映、シンポジウム、14日(日)：ワークショップ、14日(日)～19日(金)：受賞・参加作品上映、などが予定されています。多様な作品を通して社会の明日を考える機会にしてください。詳細は本映像祭のウェブサイトを確認できます。

(学部学生相談主事 吉岡至教授)

総合情報学部／総合情報学研究科

KAISERS TVにご注目ください!

総合情報学部には「MCS(Media Creative Supporter)」という学部届出団体があります。主たる活動は自主的な映像制作ですが、そのクオリティの高さから、オープンキャンパスなどの学部行事や総合関戦など体育会各部の試合の撮影も依頼されており、大学活性化に貢献しています。YouTubeの「KAISERS TV」をぜひご覧ください!



(学部長 名取良太教授)

社会安全学部／社会安全研究科

高槻ミュージックキャンパス公開講座

11月13日(土)に「ここまで来た!自動車衝突から命を守るための技術と仕組み」というテーマで公開講座を実施します。自動車が衝突したときの被害軽減に関する考え方、最近の衝突安全に関する講演や、交通事故調査から見えてきた交通事故の実態紹介、自動車事故発生時に自動的に瞬時にドクターヘリを呼んで、救命医師が駆けつけて治療を受けられる最新の救急自動通報システムに関する講演が予定されています。関心のある方はぜひご参加ください。

(伊藤大輔准教授)

法科大学院

司法試験合格発表をうけて

9月7日に令和3年司法試験の合格発表が行われ、法科大学院修了生6人が合格し、そのうち4人は新修了生(うち2人は未修)でした。

本法科大学院は、司法試験合格までのサポートのみならず、合格者の就職支援活動にも力を入れており、就職支援委員会と関大法曹会による強力なバックアップ体制を整えています。残念ながら合格に達しなかった修了生や、これから司法試験に挑む在学生のさらなる飛躍に向けて、本法科大学院は、特別演習等の正課外講座の見直しも含めた積極的な教育改革に取り組みます。

(入試主任 佐川友佳子教授)

関西大学中等部

京都フィールドワークを実施しました

緊急事態宣言が明けた6月22日、中等部1～3年生は校外学習を実施しました。この日、中等部3年生は京都フィールドワーク。



事前に準備したテーマに沿って、班ごとに調査活動を行いました。また、留学生が同行し、英語でのコミュニケーションをとりながら京都各所を巡りました。

解散場所では、友人や留学生との別れを惜しむ姿が多数見られ、生徒たちは充実した1日を過ごすことで、それぞれに成長を遂げたことと思います。

(教頭 明神克弘教諭)

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

日常の安心とコロナ対応について。経験の積み重ねが大切

11月になりました。11月には、1年次生は、学業や課外活動でも、生活習慣に慣れてどう過ごしていけば良いかわかるようになってきたと思います。12月になり通常であれば、1～3年次生は年明けの定期試験に向け勉強し、4年次生は、研究室で卒業研究に励み、研究についての議論や実験の追い込み等するべきことがあります。

今年も昨年と同様、学期初めは対面授業でしたが、コロナ感染拡大の影響で4月中にオンラインでの授業への変更を余儀なくされました。また、57年ぶりに東京で開催された夏季

オリンピックは、無観客での開催となりました。2、3年次生では、特別研究に入る前の訓練の位置付けとして実験実習があります。例えば、電気を扱う装置を例にとってみると、初めは操作が全く分からず、操作を誤り感電したとか、機械そのものを壊してしまうことも起こります。実際に装置に触れ、操作し、失敗を積み重ねながら操作方法を自分の体に覚えさせ、安全かつ安心に機械を操作できるようになります。

そのときの失敗や危険だったという経験を積み上げることは、安全の観点からも大切

で、将来役に立つはずなのです。しかし、その体験の積み重ねの機会なのですが、残念なことにコロナの影響で減ってしまいました。

コロナの変異種であるデルタ株・ラムダ株等の流行をニュースで聞きます。本年も社会全体が大きな不安を抱えたまま年末を迎えることになりそうです。大変厳しいときですが、基本に立ち戻り個人個人が気を緩めることなく感染予防に気を配り、この厳しい状況を乗り切るしかありません。

(システム理工学部 佐伯拓教授)

Attention 大学からの重要なお知らせ

関大防災Day2021で防災意識を高めよう!

関大防災Dayは2010年から実施している大規模避難訓練を含めた防災啓発イベントです。授業中に大地震が発生したと想定し、発生から安否確認に至るまでを、本学オリジナルのマニュアル・ガイドラインに基づいて実施しますので、この機会に防災意識を高めてください。

地震避難訓練 日時：2021年11月30日(火)
場所：全キャンパスで実施

訓練の具体例

- 授業中に地震が発生したと想定した避難訓練
- インフォメーションシステムなどを使用した安否確認訓練
- 電源の喪失を想定し、発電機による電源確保訓練
- 被害状況や安否確認訓練集計結果を通信ツールで各キャンパスと共有する災害時キャンパス間通信訓練



避難訓練の様子(過去の防災訓練から)

関大トピックス

外国語学部生がSAプログラムでドイツに出発!

外国語学部では、2年次に海外の提携大学へ約1年間留学するStudy Abroad(SA)プログラムを行っています。

コロナ禍により昨年からオンライン留学が続いていましたが、2月に韓国へ渡航した9人に加えて、8月から9月にかけてアメリカへ68人、イギリスへ10人が出発しました。

そして10月1日、ドイツへ出発を控えた大石茉帆さんは「メールでやり取りしていた現地のパディの学生と会うのが楽しみ」、平松巧さんは「たくさんの人と仲良くなっている色々な考え方に触れたい」と話し日本を旅立ちました。

すでに海外の提携校へ渡っている87人と合わせて、海外滞在中の外国語学部生は合計93人となりました。



体育会サッカー部の沼田駿也選手がレノファ山口FCに入団内定

体育会サッカー部の沼田駿也選手(政策創造学部4年次生)が、2022年シーズンからJリーグ・レノファ山口FCの選手として加入することが決定しました。

沼田選手の持ち味は恵まれた瞬足を生かしたスピードで、攻撃時には背後への抜け出しを得意とし果敢にゴールへ迫ります。沼田選手は「レノファ山口FCという素晴らしいクラブで、幼いころからの目標であったプロサッカー選手になることができ、大変うれしく思います。これまで自分の成長を支えてくださった全ての方々への感謝の気持ちを忘れず、多くの人々に夢や感動を与えられる選手になれるよう、日々努力していきます。これからも関西大学体育会サッカー部の応援をよろしくお願いいたします」と力強く語りました。



写真提供：関大スポーツ編集局

千里家紀流さんが「落研グランプリ」で準優勝!

8月28日、関東落研連合主催の「落研グランプリ」決勝戦がオンライン開催され、千里家紀流さん(本名:河野暁・文学部4年次生)が準優勝に輝きました。

当日の演目は、自信のある「粗忽長屋」。決勝戦は15分の制限時間の中、精一杯やり遂げたの結果に河野さんは、「4年次生という経験値の多さで話せることができました。最近、関西大学は全国大会で結果が伴っていただけに、今回の準優勝は本当にうれしかった」と語りました。

河野さんの次の挑戦は、来年2月に行われる第19回全日本学生落語選手権「策伝大賞」。昨年の大会では決勝戦に進出し、敢闘賞を受賞しており、今後の活躍が期待されます。



写真提供：河野暁さん

野球部が38回目の優勝—野口内野手はオリックス2位指名

10月10日、関西学生野球秋季リーグ戦において本学は38回目の優勝を決めました。31日(日)からの関西地区代表戦において、明治神宮大会出場を目指します。

また11日に行われた2021年プロ野球ドラフト会議において、野口智哉内野手(人間健康学部4年次生)がオリックス・バファローズから2位指名を受けました。

野口さんは強肩強打の3拍子揃った遊撃手で、思い切りのいいフルスイングが持ち味。指名後、野口さんは「オリックスに高い評価をいただきて光栄です。これからしっかり活躍して、自分を選んでよかったと思われる選手になりたいと思います」と抱負を語りました。



関大人 四方山話 ◆「サドルの上で」 高槻事務局長 鶴丸 憲一



コロナ感染が心配で、ジムに行きづらくなった。関大に奉職まもない頃から30年、特にダンスエクササイズにのめり込み、左膝が壊れようとしたすら通い続けた場所だ。仕事のストレスや緊張があっても、大音量の音楽に合わせて体を動かしたり、柔軟体操をすることで、スッと無心になった。子どもの頃から運動が大の苦手だった私にとって、やっと見つけた「自己表現の場」でもあったのだが。

しかし、ダンサーだけにターン(方向転換)は早かった。鏡張

りのスタジオを飛び出し、自転車を買ってサイクリングを始めた。地図は持たず、気の向くままにペダルを漕ぐ。時には押して歩いたり、立ち止まったり。そこには、空調の効いたスタジオにはない季節感があった。お気に入り、大阪湾の夕焼けと通天閣周辺の雑踏。過去に何度も訪れている場所なのに一味違う。

長く生きていくと、何かに引っかかって、うまく進めないことが多々ある。そんな時、少し脇道にそれてみると新しい景色が見えることがある。サドルの上で、そう思った。

編集後記

11月号は「働く関大人」「VIVA!学び場」「今月のシンクさんアクトくん」「なるほど・ザ・関大!」に加え、特集記事では芸術の秋にちなんで秋採りにオススメの展示会が紹介されています。いまだコロナ禍で気軽に外出できる状況ではありませんが、何もせず家にこもっていてもそれぞれ体調がおかしくなってしまいますよね。本特集のようにコロナで活動が制限されている中でも工夫をしながら活動を続けている学生団体は多く存在します。感染予防は行いつつ趣味や課外活動は続けていきたいものです。(広報委員・商学部教授 宮崎慧)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2021年10月29日

発行:関西大学広報委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話:06-6368-1121(大代表)

関西大学は2022年に大学昇格100年を迎えます

今月の表紙



作者:文化会美術部
津村美里さん(政策創造学部2年次生)

作品名: Unite! テーマ: 人と人のつながり

老若男女関係なく、人間の枠を越えて、この広い宇宙でみんな同じ方向に向かっていくという一体感を意識しました。

感染拡大予防策を講じた上で、取材や制作を行っています。